

遊漁船・瀬渡船の安全のために



はじめに

このパンフレットは遊漁船、瀬渡船の安全のために操船者、船客の方々に気を付けていただきたいことがらをわかりやすくまとめたものです。

安全な航行と楽しい釣りのために活用してください。

目次

-
1. 気象情報に注意

 2. 乗船時の注意

 3. 航行予定と連絡

 4. 避難場所

 5. 天候が悪化したとき

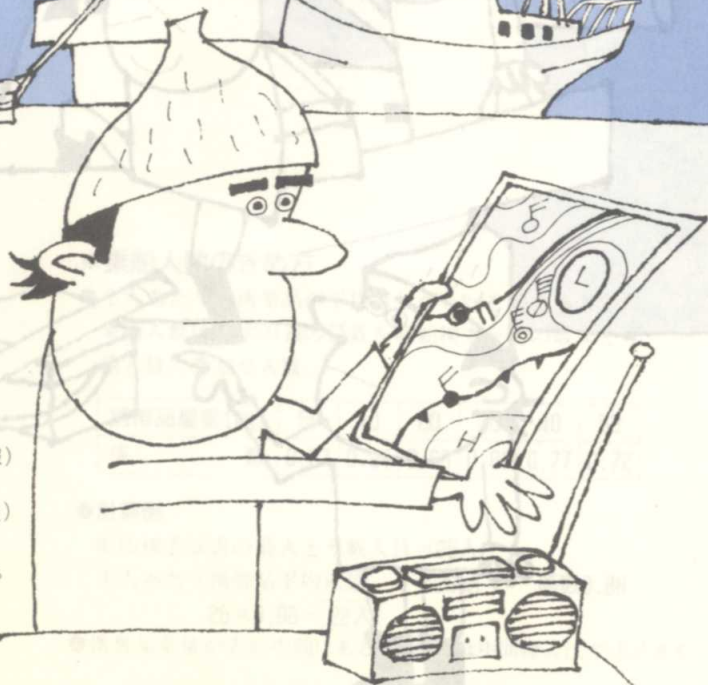
 6. 荒天中の操船要領

 7. 出港中止基準と避難基準のとりきめ

 - 出港前のチェックポイント

1 気象情報に注意

- ① 出港前にラジオ、テレビ等の天気予報、気象通報をよく聞きましょう。
- ② 放送される気象情報の観測時刻に注意しましょう。
- ③ 風向き、雲の動き等からその地域の天候を予測する「観天望気」は小型船にとって大切な気象観測の方法です。
平生からよく知った人に聞き十分な知識を得ておきましょう。
- ④ 陸上の風速が毎秒10メートルを超えているときまたは超えることが予測されるときは特に注意しましょう。海上では陸上の1.5倍の風が吹いていることがあります。



気象情報

- NHK(第2放送 693KHz)
09:10~09:30 (午前6時の情報)
16:00~16:20 (正午の情報)
22:00~22:20 (午後6時の情報)

●電話177

気象台発表の最新情報が聞けます。
(地域の情報は「市外局番-177」)

2乗船時の注意



- ①最大とう載人員を守りバランスよく平均に乗船しましょう。
- ②船客に対する指示は出港前に徹底させましょう。
- ③乗船者はできるだけ救命胴衣を着用するか、またはいつでも使えるようにしておきましょう。
- ④釣具その他の携帯品はできるだけ低い場所に置きましょう。
- ⑤携帯品については特に次の点に注意しましょう。

- (1)旅客の乗船場所にカサバル物を積むときは、その場所に相当する人数を減らす。
- (2)1人あたり平均5kgを超える物を積むときは重量に応じて乗船人数を減らす。

(※参考)



※乗船人数のきめ方

- 1人あたりの携帯品の平均重量が5kgを超えるときの乗船人数は、次の表の係数を船舶検査証書の最大とう載人員に乗じた人数。

携帯品重量(kg)	5	10	20	30	40	50
係数	0.97	0.94	0.88	0.83	0.77	0.72

●計算例

船舶検査証書の最大とう載人員=25人

1人あたり携帯品平均重量 =20kg…… 係数0.88

$$25 \times 0.88 = \boxed{22 \text{人}}$$

- 携帯品重量が表の中間にあるとき係数は中間挿入法で求めます。

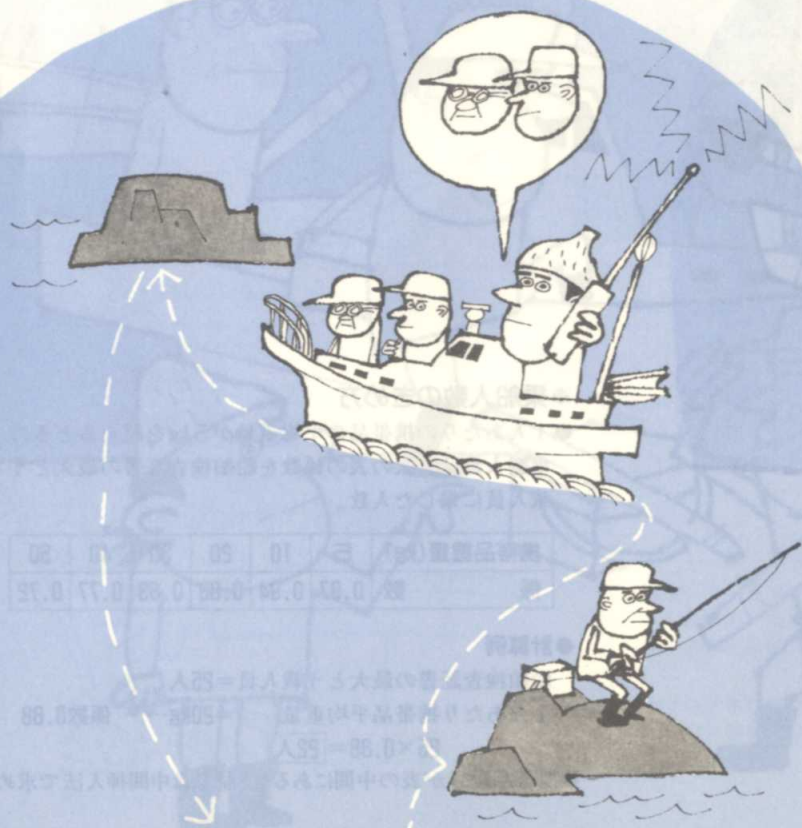
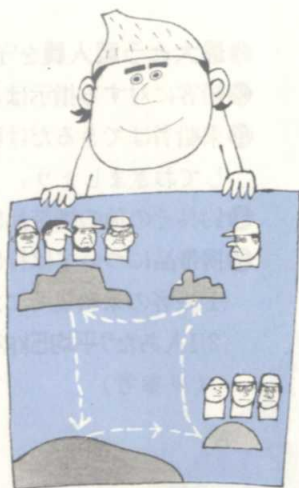
3 航行予定と連絡

① 出港前に次の記録を作り基地においておきましょう。

- 乗船者の名簿
- 予定の航路、漁場
- 予定の帰港時刻

② 出港後は次のことをできる限り基地に連絡しましょう。

- 現在位置
- 天候、風の状態、海の状態、船の状態
- 船客の釣場への陸揚げ、収容の状態

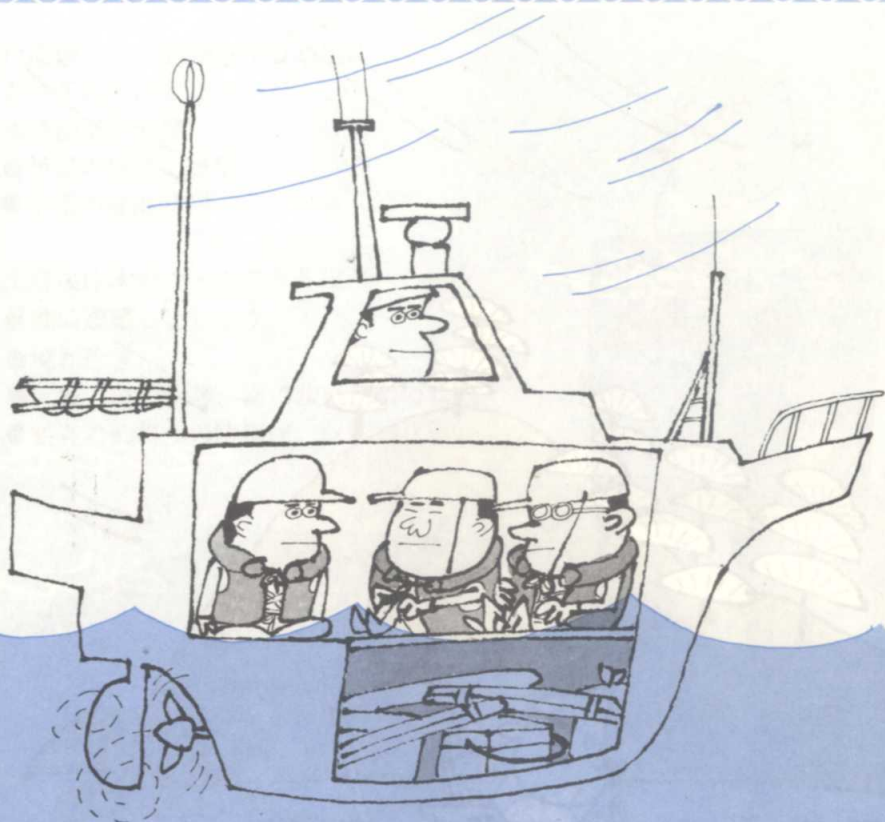


4 避難場所



- ① 航行中に荒天が予測されたり、帰港することが難しいと判断されたときに時機を失することなく避難することができる場所をあらかじめきめておきましょう。
- ② 避難場所は風向、風力、波の状態に応じて利用できる所とし、航行中はその場所までの到着時間を承知しておきましょう。
- ③ 避難場所は機会をみて現場の水深、障害物等を調べておきましょう。

5 天候が悪化したとき



- ① 荒天対策は十分よゆうをもって早目に準備しましょう。
- ② 船の重心を下げるために釣具、釣果その他の積載物をできるだけ船底近くに移しましょう。
- ③ 船の動揺で移動するおそれのある物は動かないようにしばりつけておきましょう。
- ④ 船内に水が入らないようにハッチ、出入口、窓等はしっかり閉めましょう。特にハッチのふたは浮きあがらないようにロープ等でしばっておくことが大切です。
- ⑤ 乗船者は必ず救命胴衣を着用しましょう。
- ⑥ 自動操舵装置は手動に切りかえて 波、風の状態を確かめながら操船しましょう。
- ⑦ 非常の場合に使用する救命具、信号が支障なく使えるように準備しておきましょう。
- ⑧ 他船の動静に十分注意しましょう。

6 荒天中の操船要領

- ① 波浪中は原則として舵がきく程度まで減速して航走しましょう。
- ② 横波を受けて航走すると船が転覆しやすくなるのでできるだけ避けましょう。
やむをえない場合は極力短い時間にしましょう。
- ③ 波浪中で回頭するときは大波が通過した直後に増速して早くまわるようにしましょう。この場合必要以上に大舵をとらないことが大切です。
- ④ 追波を受けて航走すると下り斜面で舵がきかなくなったり、ひどいときには船が転覆する危険があります。追波を受けて航走する場合には、次の点に注意して慎重に操船しましょう。
 - 追波や斜め追波をできるだけ避けるコースを選びましょう。
 - やむをえない場合はできるだけ波の上り斜面を航走するようにしましょう。
船の速さが波より早い場合は波頂で十分減速し、波の谷間に突込まないようにして前の波の上り斜面にとりつくようにします。
船の速さが波より遅い場合は、追いつかれた波の下り斜面で十分減速し、早く波の頂を通過させておき次の波の上り斜面ではできるだけ長く航走するように増速します。



(ブローチングに関する実船実験)

7 出港中止基準と避難基準のとりきめ

- ① 小型船の安全のためには荒天時の出港中止や航行中の避難の基準を地域の運航者間で自主的に定め確実に履行する協定をとりきめることが大切です。
- ② 協定は同じ地域で航行するほぼ同じ小型船グループごとにとりきめておき、船や海に慣れていない船客からの要求があってもその内容をよく説明して安全第一をはかりましょう。
- ③ 協定には次の点をはっきりさせておきましょう。
 - 出港中止または避難する荒天の程度
 - 荒天の程度を判断する方法
 - 判断の結果を協定参加者に連絡する方法
 - 船客への周知方法



出港前のチェックポイント

船の現状	船底にビルジがたまっていないか。
	排水口にゴミ等がないか。
機関の現状	燃料は十分に積まれているか。
	潤滑油は汚れていないか、適量あるか。
	燃料油、潤滑油のコシ器は汚れていないか。
	バッテリー液は適量か、端子結線にゆるみはないか。
	機関の操作（前進、中立、後進、増減速）は円滑か。
	冷却水が確実にまわっているか。
	ビルジポンプの作動は確実か。
操舵室の現状	舵は左右最大舵角まで円滑にとれるか。
	船燈の点滅、警笛の作動は確実か。
	計器類の指示に異常はないか。
	無線機の作動は確実か。
発航状態	安全備品はそろっているか、すぐ使えるか。
	定員は守られているか。
	特に重い荷物が積まれているか。
	船具、手荷物等は邪魔にならないように積まれているか。



日本小型船舶検査機構

〒102 東京都千代田区九段北4-2-6 市ヶ谷ビル
電話03(239)0821代